

児童が主体的に学ぶ生活科の授業づくり
～「わたしの 町 はっけん」の学習を通して～

日立市立日高小学校

1 はじめに

学習指導要領解説生活科編には、「児童が直接外に出て、自分と地域の人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分とのかかわりが具体的に把握できるようにすることが重要である。」と書かれている。本校の日高学区には、駅があり、そこから国道へ続く道の「ゆりの木通り」には地元の方が経営する商店が並んでいる。また、交流センターや幼稚園、公園などの公共施設もあるなど、環境的にとても恵まれている。地域の方との交流も盛んで、三世代スポレクや三世代文化祭、鳥追い祭りなどに児童が参加している。

本校の生活科や総合的な学習の時間では次のように地域と関わっている。1年生では秋を探しに近くの公園に出かけたり、昔遊びを地域の方に教えてもらったりする学習を行っている。2年生では「ゆりの木通り」に探検に出かけ、町の秘密を見つける。3年生では、ふるさと探検で日高に昔からある場所をめぐり、地域の方からその場所にまつわる話を聞く学習を行っている。今回は第2学年の「わたしの 町 はっけん」の事例を紹介する。より自分たちの住んでいる町に興味関心を持ち、自ら調べたいことを調べ、さらに自分たちが住む町に愛着がわくような学習活動を展開したいと考えた。

2 指導案

(1) 単元名 わたしの 町 はっけん

(2) 目 標

○ 自分たちが住む町を探検し、様々な場所やもの、人に出会いながら、町への親しみと愛着をもち、ルールやマナーを守り、安全に気をつけて、見たり、調べたりしようとしている。
(生活への関心・意欲・態度)

○ 自分の好きな場所や人、心に残った出来事などを表現し、友達や地域の人に知らせることができる。
(活動や体験についての思考・表現)

○ 自分たちの生活は、地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわりをもっていることに気づくことができる。
(身近な環境や自分についての気付き)

(3) 単元設定にあたって

①指導にあたって

子どもたちの地域生活は、家庭と学校を核にして、放課後に利用する学童クラブや公園、さらに家族と共に行く商店や駅などの場所と、そこに働く人々などとかかわり支えられて成り立っている。また、その過程で、地域で生活する人々ともかかわり見守られて生活している。し

事前調査の結果

(平成 28 年 9 月 6 日実施 対象人数 26 名)

- 生活科の学習は好きですか。
はい 20名 ふつう 6名 いいえ 0名
- 自分の住んでいる地域に、どんな商店や工場や施設があるか知っていますか。
よく知っている 6名
自分の家の近くなら知っている 11名
あまりよく知らない 9名
- 地域にある商店や施設に行って、いろいろなことを知りたいと思いますか。
はい 26名 いいえ 0名

かし、自分の生活が「地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっている」ことを意識している子どもは少ない。本単元では自分たちの地域の人や場所のすばらしさに気づき、親しみや愛着を深めることをねらいとしている。

本学級は生活科の学習が好きな児童が多く、意欲的に活動に取り組む児童が多い。1学期の「春の 町で はっけん」では、学校の近くの「ゆりの木通り」に探検に出かけ、いろいろな商店や施設、自然があることに気付いた。児童たちは、商店や施設の中に入って、いろいろな話を聞いたり質問したりしたいという願いをもっている。

そこで本単元では、グループごとに地域へ出かけ、興味をもった施設や商店の様子を調べたり、インタビューをしたりする学習を展開する。それらの活動を通して、自分たちの生活が多くの人とかかわりながら成り立っていることに気付かせたい。また、発見したことを言葉、絵、動作、劇化など自分なりの方法で表現し、伝える楽しさに気付くようにしたい。前時までに質問の内容について考え、どんな質問をするかグループで話し合っておく。本時では、施設や商店の人にインタビューをする際のマナーを考え、インタビューの練習をする。分かりやすく伝えることができるようになるとともに、相手の立場になって考えることができるようにする。そして、探検に行ったときに自信をもってインタビューができるようにしたい。

② 指導計画（20時間扱い）

流れ	予想される活動	支援と留意事項
町には はっけんが いっぱい (3時間)	・町で大好きな人やその場所とそのわけを紹介し合う。	・お互いの発見を聞いて、町発見に行きたいという気持ちを高められるようにする。
みんなの はっけんを あつめよう (15時間) 本時は第4時	・「町はっけん」に行く計画を立てる。 ・「町はっけん」に出発し、発見を広げる。 ・発見した「町のすてき」を発表する方法や内容を相談して、その準備をする。	・誰もが役割がある計画を立てるよう助言する。 ・秘密を探ってみんなに伝えるという目的意識をもたせることで、進んで施設の様子を調べたり、質問したり、地域の方とかかわりを持って行動するようにする。 ・まとめ方や発表の仕方などを助言する。
町の 人に つたえたい (7時間)	・調べたことをもっと多くの町の人に伝える方法を相談し、学校内外へ情報発信する。	・情報発信の方法について、児童の思いや願いを聞きながら助言する。

(4) 本時の指導

①目標

- ・インタビューをするときのマナーを考え、インタビューの練習をすることで、探検に行く見通しをもつことができる。
(活動や体験についての思考・表現)

②準備・資料

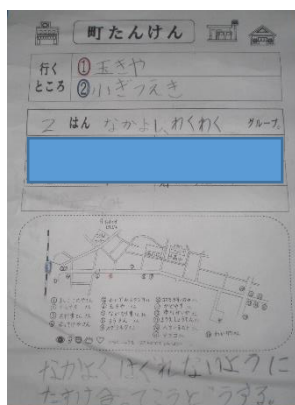
ワークシート、質問カード、ネームカード、掲示用写真、パソコン、プロジェクター、スクリーン、LAN ケーブル

③展開

◎個に対する指導の手立て

学習活動・内容	支援の手立てと評価
1 本時の学習のめあてを確かめる、 「町はっけん」での インタビューの れんしゅうをしよう。 2 商店で見学をしたり、インタビューをしたりするときのマナーについて話し合う。 ・ていねいなことばで話す。 ・話をよく聞く。 ・あいさつやお礼をきちんと言う。 ・教えてもらったことはきちんとメモをとる。 3 インタビューの映像を見て、マナーのよいところを確かめ、気付いたことを発表する。 ・あいさつがきちんとできている。 ・大きな声で分かりやすく話している。 ・きちんとメモをとっている。 4 インタビューの練習をする。 (1) 一人でインタビューの練習をする。 (2) 2グループでお互いにインタビューし合う。 お店は何時から何時まであいていますか。 大変なことは何ですか。 一ばん売れているものは何ですか。 気をつけていることはありますか。 (3) インタビューを受けてみて、よかったところやアドバイスを伝える。 大きな声で聞きやすかったです。 もっとゆっくり話をしてくれるといいなと思いました。 元気よくあいさつしてくれたから、気持ちよかったです。 5 本時の学習の振り返りをし、次時の学習を知る。 ・グループで、一番上手にできていた児童の発表を聞く。 ・振り返りをワークシートに記入する。 ・感想を発表する。	・本時の流れや、お店や施設の写真を掲示し、探検に行く意欲を高める。 ・どんなことに気をつけて質問や見学をすれば、商店や施設の人が気持ちよく対応してくれるかを考えられるように話す。 ・意見がなかなか出ないときには、隣の人と相談してみるよう助言する。 ・もし、自分が商店の人だったらどう思うか考えるよう促す。 ・インタビューをしている動画（NHK for school）を見せることで、よいイメージを持てるようにする。 ・気付いたよいところを発表することで、よさを共有できるようにする。 ・商店や施設の人役、インタビューする人役のネームカードを準備し、一目で誰が何の役割をしているのか分かるようにする。 ・商店や施設の人になりきって答えるように話す。 ・グループの中で良かった児童を選んでおくように話し、練習する気持ちを高める。 ◎一人で質問することに不安がある児童には、友達と一緒に質問してみるよう声をかける。 ・今日話し合ったマナーは守れていたかについて伝えるように話す。 ・アドバイスするときは、「もっと〇〇すると思います。」と、前向きな言葉で伝えるように声をかける。 ・アドバイスをしてもらったら、実際の探検のときには気をつけてインタビューできるように、メモをとるよう助言する。 (評) インタビューをするときのマナーを考え、インタビューの練習をすることで、探検に行く見通しをもつことができる。 (ワークシート・観察・発言) ・インタビューの練習をしたときや仲間にインタビューされたときの感想を発表し合い、気付きを共有できるようにする。 ・次時は、探検に備えて約束や持ち物の確認などをすることを知らせる。

3 資料



まとめカードの一部

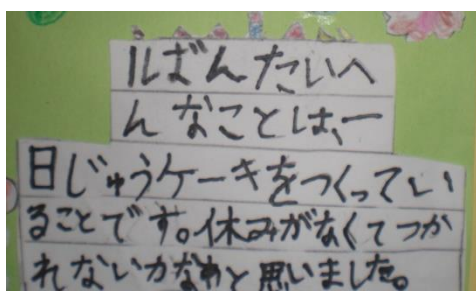
「町はっけん」計画書

「町はっけん」のようす



お礼の手紙

発表の様子



4 成果と課題

(1) 成果

インタビューの練習をしっかりと行ったことで、自信をもって活動できていた。実際に商店や施設を見たり、話を聞いたりする中で、新しい発見や驚きがあり、生き生きと活動していた。「朝9時から夜10時まで長い時間お店を開いていて、たいへんだなと思いました。」や「たくさんのお米を2分でとぐことができるきかいがある。」などの記述がワークシートやまとめカードに見られた。探検して、実際に見て、聞いてきたからこそ分かったことが多く、実りある学習だった。まとめを作成する中で、「こんなことも伝えたい。」「絵も入れたら、分かりやすいかな。」「クイズにしたいな。」とグループで話し合いながら、意欲的に活動する姿が見られた。発表会では、お互いに探検していない施設や商店の秘密を知ることができ、とても興味深く発表を聞いている様子が見られた。学級内で発表し、まとめを廊下に掲示することで、自分が行けなかった施設や商店の秘密を共有することができ、さらに学びが深まった。町の人々へは、お礼のお手紙の中に分かったことを書き、掲示物にして届けることができた。本単元を通して、町への関心がさらに高まってきている。

(2) 課題

町探検は、サポーターとして班についてくださる保護者の方や、地域の施設や商店の方の協力がある活動である。毎年快く受け入れてくれており、お礼の手紙を数年分掲示してくれている商店もあり、とても協力的で恵まれている。一方で、閉店や移転などにより、新しく協力してくれる施設や商店を探さなければならないことが大変であった。また、保護者の方のサポーターの人数を確保することがなかなか難しくなっている。